

Asahi**KASEI**

グループ事業のご報告

第124期年次報告書

2014.4.1 — 2015.3.31

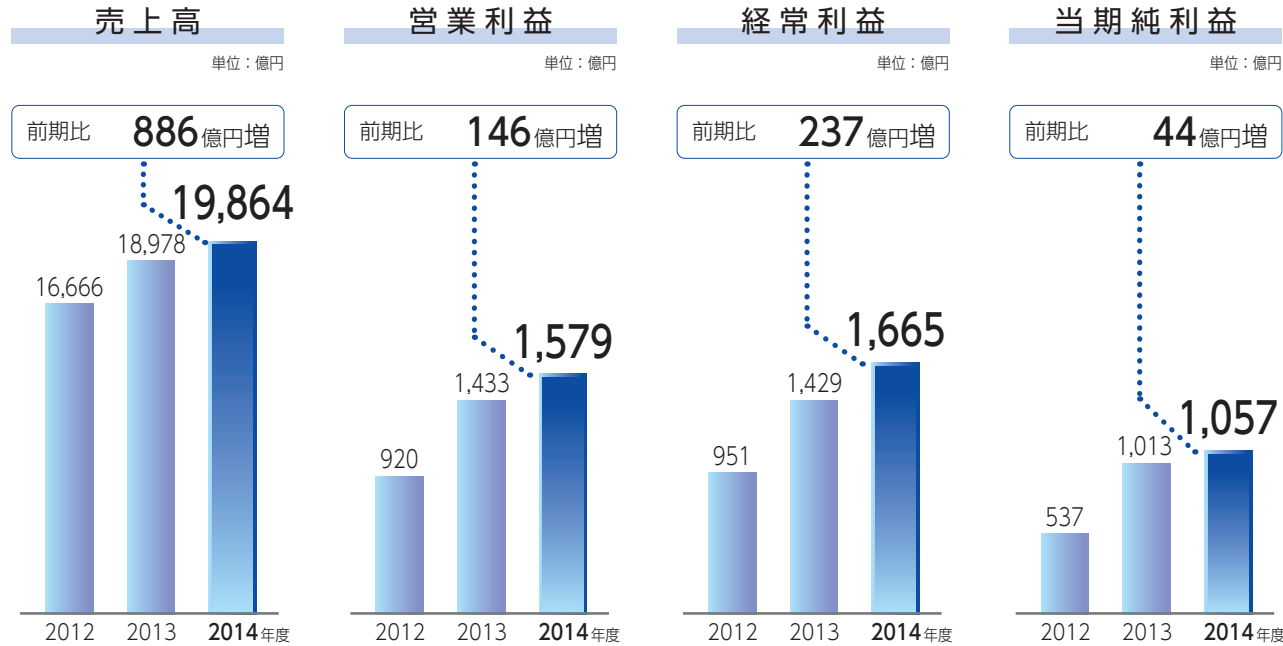
証券コード:3407

旭化成株式会社

HIGHLIGHTS

2014年度決算ハイライト

[売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて2年連続で過去最高を達成]



2014年度の業績について

当社グループの当期の連結業績は、建材事業や医薬事業で販売量が減少しましたが、円安、原油安の進行によりケミカル事業で交易条件が改善し、繊維事業でも営業利益が分社・持株会社制移行後初めて100億円を超えるなど好調に推移しました。また、2012年に買収したZOLL Medical Corporationの売上高が1,000億円を超え、買収から3年で黒字化を達成するな

ど、クリティカルケア事業も拡大しました。以上により当社グループの売上高は、1兆9,864億円で前期比886億円(4.7%)の増収、営業利益は1,579億円で前期比146億円(10.2%)の増益、経常利益は1,665億円で前期比237億円(16.6%)の増益、当期純利益は1,057億円で前期比44億円(4.3%)の増益となりました。

ごあいさつ

“グループ事業のご報告”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2014年度の世界経済は、米国で景気が回復し、欧州でも持ち直しの動きが見られましたが、中国を中心とした新興国経済の成長が鈍化するともに、地政学的リスクによる経済不安が拭えない状況にありました。一方で日本経済は、期前半には消費税増税により個人消費の低迷も見られましたが、後半からの円安、原油安の進行により、総じて企業業績は改善し、景気は緩やかな回復傾向にありました。

当社グループの2014年度における連結業績は、建材事業や医薬事業で販売量が減少したもののケミカル事業やクリティカルケア事業などが好調に推移したことから、前年度に引き続き、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて過去最高を達成しました。この業績を鑑み、2014年度期末の配当につきましては10円とさせていただき、この結果、中間配当9円と合わせた2014年度の年間配当は、前年度に比べて2円増配の1株当たり19円となります。

2015年度は、2011年度より開始した中期経営計画「For Tomorrow 2015」の最終年度にあたります。2014年度は、「環境・エネルギー」分野におけるバッテリーセパレータ事業拡大のため、米国Polypore International, Inc.の買収を決定しました。また、国内石油化学事業の基盤強化等も着実に進めており、当社グループでは、これまでに実施した投資を実現させ収益に結び付けることで、本中期経営計画の目標を達成する所存です。

一方で、2016年度から開始する次期中期経営計画においては、当社グループの事業領域を「マテリアル」「住宅」「ヘルスケア」の3つに再編し、旭化成(株)は連結子会社3社を吸収合併し、事業持株会社へ移行することを決定いたしました。これにより、事業の一層の融合とイノベーションの加速を目指し、戦略的かつ効率的な経営を行うことで、今後もグループ一体となって、さらなる企業価値の向上と持続的な成長を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、従来と変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



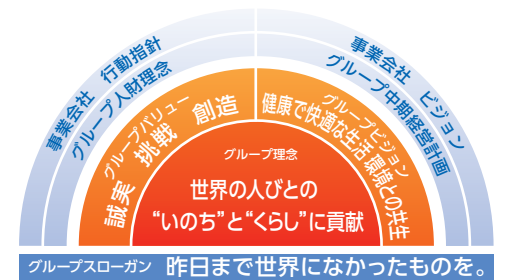
取締役会長

代表取締役社長

伊藤 一郎

浅野 敏雄

グループ理念体系図



2015年6月

「For Tomorrow 2015」の目標を達成し、さらなる成長に向けて飛躍します！

グループ理念 私たち旭化成グループは世界の人の「いのち」と「くらし」に貢献します

■ 2014年度の総括をお願いいたします。

2014年度は、中期経営計画「For Tomorrow 2015」の目標達成に向けてさらに前進することができました。国内石油化学事業の基盤強化が計画どおり進捗し、これまでの投資施策の成果が発現したことで、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに2年連続で過去最高を更新しました。同時に本年2月にバッテリーセパレータ事業を手がける米国 Polypore International, Inc. (以下、ポリポア社) の買収を、3月にはさらなるグループの成長に向けた2016年度からの経営体制再編についても意思決定をし、次期中期経営計画策定のための礎をつくることもできました。

■ セグメント別の事業概況について聞かせてください。

「ケミカル・繊維」のケミカル事業では、成長領域である省燃費型高性能タイヤ向け合成ゴムはシンガポールにて、エンジニアリング樹脂のコンパウンドは米国にてそれぞれ能力増強を進めています。また、ウレタン樹脂原料であるPCDの製造ライン新設、塗料原料等に用いられるHDI系ポリイソシアネートの製造ライン

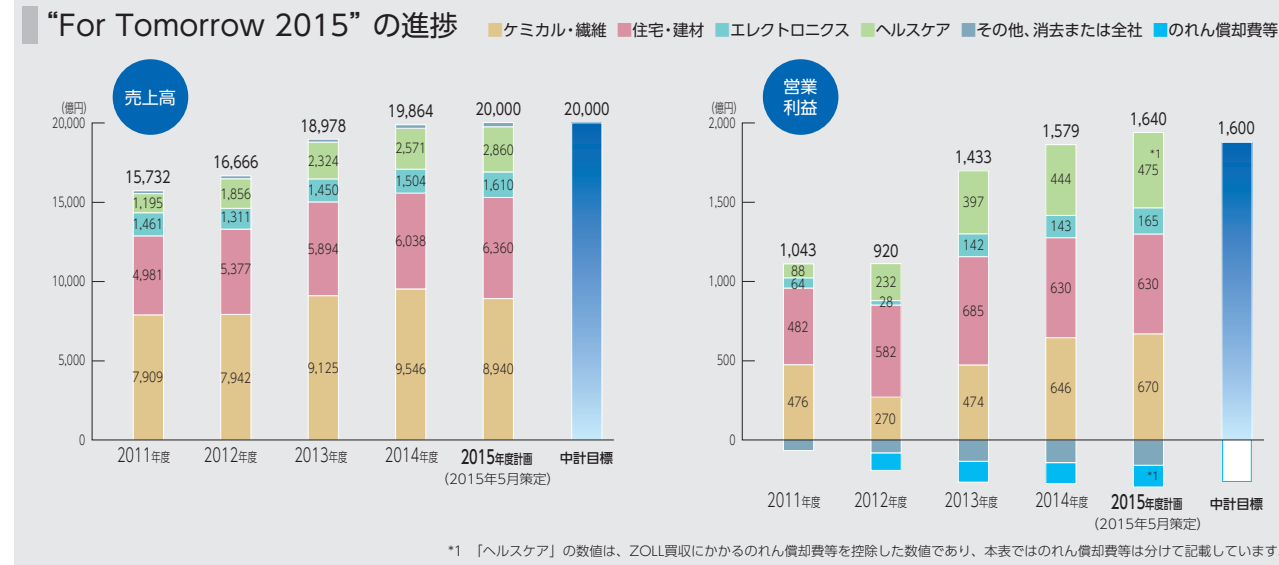


代表取締役社長
浅野 敏雄

増設を中国で行いました。一方で、2016年4月の水島地区エチレンセンター基化などの基盤強化も進めています。繊維事業では、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」は国内で、衛生材料向けのスパンボンド不織布、ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」はタイで能力増強を行っており、さらなるグローバル展開を進めています。

「住宅・建材」の住宅事業では、前期比減益となったものの、売上高と受注高では過去最高を記録しました。集合住宅を中心に引渡戸数が伸び、不動産部門の賃貸事業も堅調に推移しました。建材事業では、消費税増税の反動の影響で断熱材の販売量が減少しました。

「エレクトロニクス」では、電子部品系事業ではスマートフォン向けの電子部品が、また電子材料系事業では高機能領域の製品が販売量を伸ばし、円安の効果



もあって順調に推移しました。

「ヘルスケア」では、医薬事業で消費税増税による反動と、薬価改定の影響を受けましたが、医療事業でウイルス除去フィルター「プラノバ™」が販売量を伸ばしました。クリティカルケア事業では、着用型自動除細動器「LifeVest™」が引き続き好調で、のれん等償却後で営業利益黒字化を達成しました。

■ 2015年度の見通しについて聞かせてください。

ケミカル事業の基盤強化の進捗に伴い、ケミカル事業の石油化学系事業で生産・販売量が縮小し、住宅事業では資材費等の高騰により施工費が、医薬事業では研究開発費が増加する見込みですが、クリティカルケア事業が引き続き業績を拡大し、その他の事業でも販売量の増加

を見込んでいるため、増収・増益となる見通しです。売上高は2兆円、営業利益は1,640億円となり、売上高、営業利益ともに過去最高を更新する予定です。

■ ポリポア社の買収について教えてください。

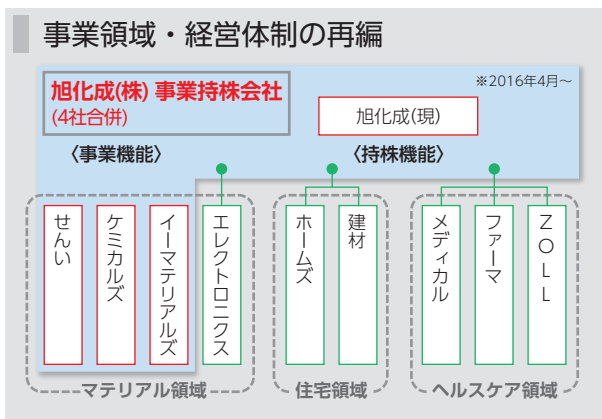
ポリポア社のバッテリーセパレータ事業は、車載用

ポリポア社	
バッテリーセパレータ事業	売上高 4.5億米ドル 営業利益 0.9億米ドル (本社費控除前)
CELGARD	DARAMIC
リチウムイオン二次電池用セパレータ 売上高 1.3億米ドル	鉛蓄電池用セパレータ 売上高 3.2億米ドル
(用途) ・携帯用電子機器 ・動力工具 ・環境対応車 ・電力貯蔵システム	(用途) ・自動車、トラック、バス ・フォークリフト ・予備電源
	* ポリポア社 2014年実績

途に注力しているリチウムイオン二次電池用のセパレータ「Celgard™」に加え、産業向け用途等でも幅広く展開している鉛蓄電池用セパレータ「Daramic™」の両ブランドを展開しています。今後は当社のバッテリーセパレータ「ハイポア™」事業との融合を図り、「環境・エネルギー」分野における中長期的な技術力の向上および事業の拡大を図ります。買収の完了には、各国競争法当局および監督当局からの認可取得が必要になりますが、これまでどおり必要な諸手続きを進め、早期の統合を目指していきます。

■ 次期中計と経営体制の再編について聞かせてください。

2016年からの次期中期経営計画については、10年後を見据えた計画とするものの、ゴールの姿をより具体的なものにするため3カ年計画とします。また、これまでに達成してきた成果を踏まえ、多角化・多様化



を推進し、「成長と収益性の追求」と「新規事業の創出」を目指していきます。

さらに2016年4月には、「ナレッジ・技術」と「人材」の高度化・融合を図り、競争力を強化するため、連結子会社である旭化成ケミカルズ(株)、旭化成せい(株)および旭化成イーマテリアルズ(株)を旭化成(株)に吸収合併し、事業持株会社として新たにスタートします。次期中期経営計画からは事業領域を「マテリアル」「住宅」「ヘルスケア」の3つに再編し、成長の加速、事業創出力の強化、専門性の向上および効率化を図っていきます。

■ 株主還元策について教えてください。

当社は、連結業績をベースにして、適切な内部留保を図りつつ、継続的な収益拡大による継続的な増配を目指すことを基本方針としています。内部留保資金は、成長戦略の中心と定めている「環境・エネルギー」「住・暮らし」「ヘルスケア」の3分野において、既存事業の拡大投資や、M&Aも含む戦略的な投資、新規事業創出のための研究開発費など、将来の収益拡大の実現に必要な資金として充当していきます。

当期の配当額につきましては、上記の方針を勘案し、2円増配の年間19円とさせていただきます。来期につきましては、業績予想を踏まえ1株当たり20円を予定しています。今後も配当性向3割を目安に、株主の皆様さまへ積極的な還元を図ってまいります。

決算ハイライト セグメント別

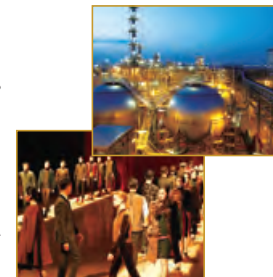
ケミカル・繊維
セグメント

売上高
9,546億円
(前期比4.6%増)

営業利益
646億円
(前期比36.2%増)

●事業会社
旭化成ケミカルズ株式会社 社長：小林 友二
【主要製品】石油化学系（アクリロニトリル、スチレンモノマー、ポリエチレンなど）、高機能ポリマー系（エンジニアリング樹脂、合成ゴム、アジピン酸など）、高付加価値系（中空糸ろ過膜「マイクロザ™」、イオン交換膜、医薬・食品用添加剤「セオラス™」、「サララップ™」など）

●事業会社
旭化成せい株式会社 社長：高梨 利雄
【主要製品】再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、スパンボンド不織布、ナイロン66繊維「レオナ™」など



住宅・建材
セグメント

売上高
6,038億円
(前期比2.4%増)

営業利益
630億円
(前期比8.0%減)

●事業会社
旭化成ホームズ株式会社 社長：池田 英輔
【主要製品・事業】戸建住宅「ヘーベルハウス™」、集合住宅「ヘーベルメゾン™」、分譲マンション「アトラス™」、「ヘーベルメゾン™」の賃貸管理、リフォーム事業、住宅ローン事業など

●事業会社
旭化成建材株式会社 社長：前田 富弘
【主要製品】軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」・「ジュピー™」、パイル、鉄骨構造用資材など



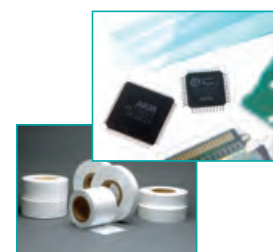
エレクトロニクス
セグメント

売上高
1,504億円
(前期比3.7%増)

営業利益
143億円
(前期比0.4%増)

●事業会社
旭化成エレクトロニクス株式会社 社長：田村 敏
【主要製品】ミクスドシグナルLSI、ホール素子など

●事業会社
旭化成イーマテリアルズ株式会社 社長：高山 茂樹
【主要製品】リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」、感光性ドライフィルム「サンフォート™」、フォトマスク防塵保護膜ペリクルなど



ヘルスケア
セグメント

売上高
2,571億円
(前期比10.6%増)

営業利益
308億円
(前期比15.3%増)

●事業会社
旭化成ファーマ株式会社 社長：堀 一良
【主要製品】医療用医薬品(骨粗鬆症治療剤「テリボン™」、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」、排尿障害改善剤「フリバス™」)など

●事業会社
旭化成メディカル株式会社 社長：柴田 豊
【主要製品】ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、アフエレス(血液浄化療法)関連機器、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」など

●事業会社
ZOLL Medical Corporation CEO: Richard A. Packer
【主要製品】医療機関向け除細動器、着用型自動除細動器「LifeVest™」、自動体外式除細動器「ZOLL AED Plus™」、体温管理システム「サーモガードシステム™」など



第124期の取り組みをご紹介します。

TOPICS

▶ 持株会社 ▶ ケミカル・繊維 ▶ 住宅・建材 ▶ エレクトロニクス ▶ ヘルスケア

2014 4月

▶ 着用型自動除細動器「LifeVest™」の日本国内でのサービス提供を開始。



▶ 重量鉄骨システムラーメン構造の3階建て住宅「ヘーベルハウスFREX(フレックス)™」に新開発のオイルダンパー制震装置「サイレス(SeiRReS)™」を全棟標準装備。

▶ ハイエンドオーディオ機器を中心に、独自の高音質オーディオ技術である「VELVET SOUND™」を搭載した新世代オーディオデバイス(LSI)の採用が始まりました。



5月

▶ 分子レベル(ポリマー自体)で複屈折「ゼロ」を実現した光学用新規透明樹脂「AZP™」を開発し、生産設備を川崎製造所千葉工場内に新設することを決定しました。

▶ 住みながら生活ゾーンを効率よく断熱リフォームする「居ながらゾーン断熱」を可能にする「ネオマ™断熱ボード」の発売を開始しました。

▶ 「ザイヤフレックス®」の国内製造販売承認を申請

「ザイヤフレックス®」は、手のひら内部の腱膜が肥厚し、手指の屈曲拘縮が生じるデュピュイトラン拘縮に対し、手術以外の効果的な治療法を提供するべく開発された新規の局所注射剤です。治療における新たな選択肢として期待されています。

▶ タイにおけるスパンボンド不織布の製造・販売会社である旭化成スパンボンド(タイ)の設備増設を決定しました。

▶ 富士支社内に血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」の原薬を製造する新棟の建設を決定しました。



7月

▶ 繊維の技術を駆使した伸縮電線「ロボ電™」の販売を開始しました。

▶ 米国での樹脂コンパウンド第二工場起工式を開催

米国・アラバマ州での樹脂コンパウンド第二工場の起工式を開催しました。今後、米国南部を中心とした需要の拡大と顧客のニーズに対応し、供給体制の拡充を図ります。



起工式であいさつする旭化成ケミカルズの小林社長

▶ 旭化成商事、旭化成コマース、旭化成インターテックスタイルズの3社を2015年4月1日付で統合し、新たに「旭化成アドバンス株式会社」として業務を開始することを決定しました。

▶ ZOLL社が米国Impact社と資産売買契約を締結

米国の呼吸管理機器メーカーであるImpact社と実質的全資産を買収することで合意し、資産売買契約を締結しました。



※日本未承認

10月

▶ ZOLL社がRoyal Philips社の体温管理システム事業譲受けに関する契約を締結

Royal Philips社と体温管理システム事業と事業に関連する実質的全資産を買収することで合意し、事業譲渡契約を締結しました。



※日本未承認

▶ 富士支社内の初期量産ラインで生産を開始し、水質の検査や管理などに用いられる分析・計測機器向けの深紫外LED「Optan™」を発売しました。

▶ 中国でポリカーボネートジオール(PCD)の生産設備が稼働

中国・江蘇省南通において、高機能ポリウレタン樹脂原料であるポリカーボネートジオール(PCD)「デュラノール™」の生産設備が稼働しました。

12月

▶ ポリカーボネート樹脂の原料であるジフェニルカーボネート(DPC)の新製法として、ジオアルキルカーボネート(DRC)を経由した製造プロセス(DRC法DPCプロセス)を開発し、実証プラントを水島製造所内に建設することを決定しました。

▶ 骨粗鬆症治療剤「テリボン®」について、東亜STIに韓国における独占的開発・販売権を供与するライセンス契約を締結しました。



▶ ZOLL社が米国Advanced社の買収契約を締結

胸腔内圧制御機器の製造・販売を行う米国の医療機器メーカー、Advanced社を買収することで合意し、買収契約を締結しました。



2015 1月

▶ 米国ポリポア社を買収

米国のバッテリーセパレータおよび医療・工業用膜関連の高分子ポリマー膜メーカーであるポリポア社を買収することで合意しました。



買収の記者会見の様子

▶ 樹脂コンパウンド事業のメキシコ現地法人の設立を決定

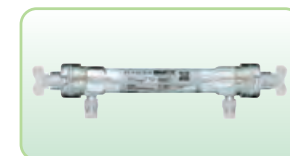
メキシコにて樹脂コンパウンド事業の現地法人を設立することを決定しました。現在メキシコには、日系、欧米系自動車関連メーカーをはじめ、各社が相次いで進出しており、機能樹脂コンパウンド品の需要拡大が見込まれています。

▶ 連結子会社の吸収合併を決定

2016年4月に連結子会社である旭化成ケミカルズ、旭化成せんい、および旭化成イーマテリアルズを吸収合併し、事業持株会社に移行することを決定しました。

▶ 旭化成ホームズグループ初の海外生産工場設立を決定

部材の安定供給と高水準の品質管理を実現するとともに、さらなるコストダウンの推進も図るため、ベトナムにおいて共同出資法人を設立し、主要構造躯体以外の各種鉄骨部材の生産工場を新設することを決定しました。



2014年度に誕生した新製品です！

中期経営計画「For Tomorrow 2015」では、「健康で快適な生活」「環境との共生」の観点で、グループをあげて「昨日まで世界になかったものを。」提供するという基本理念のもと、「新しい社会価値の創出」にグループ横断的に取り組んでいます。今回は、これらの取り組みの成果として、2014年度に新たに誕生した新製品の一部をご紹介します。

旭化成ホームズ

オイルダンパー制震装置 「サイレス(SeiRReS)™

鋼製のパネルとオイルダンパーで構成され、オイルダンパーを介して基礎と鉄骨梁をつないでいるため、地震の揺れが伝わると、ダンパー内部に充填されているオイルの圧力によって抵抗が生まれ、揺れを低減する仕組みになっています。揺れが激しいほど減衰力が強まるように設定されているため、大・中・小、さまざまな地震の揺れに対して制震効果を発揮します。重量鉄骨システムラーメン構造の3階建て住宅「ヘーベルハウスFREX(フレックス)™」に標準採用されています。



旭化成

分析・計測機器向け深紫外LED 「Optan™

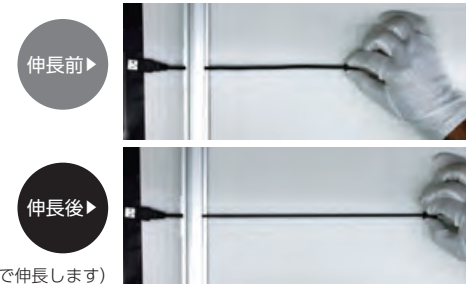
窒化アルミニウムの単結晶基板上に薄膜を形成した構造の深紫外LED。長寿命かつ世界トップクラスの高い発光能力を有しています。富士支社内に初期量産ラインを建設し、水質検査や管理などに用いられる分析・計測機器向け深紫外LED「Optan™」を発売しました。今までのように水銀を使用せず、殺菌に最も効果的な波長を発光できます。また、薬品を使わず、環境に優しい殺菌が可能のため、飲料水や食品、空気など幅広い分野での使用が期待されています。



旭化成せんい

伸縮電線 「ロボ電™

ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」を用いた伸縮する電線「ロボ電™」。伸縮性に加え屈曲耐久性に優れており、たるむことなくストレート形状で伸縮する電線です。今後は、小型化、軽量化、生産性向上を目指す産業用ロボット、人間の動きに合わせた配線が必要とみられるウェアラブル機器、介護ロボットや補助機器、パワーアシストスーツやバイタル機器、義手義足などの医療機器などでの利用が期待されています。



(1.4倍まで伸長します)

旭化成ケミカルズ

光学用新規透明樹脂 「AZP™

プラスチック素材としては初めて分子レベルで複屈折*ゼロを実現した「AZP™」。テレビ、パソコン、スマートフォン等で使用されているディスプレイは、IT機器の高性能化に伴い高精細化、光利用効率の向上、低消費電力化が求められています。従来の樹脂では、複屈折により通過する光が歪み、光漏れによりコントラストが低下したり、画像が不鮮明になる問題点がありましたが、「AZP™」は光の進行を乱さず、鮮明な画像、光利用効率の向上が可能です。軽量で加工しやすいことからガラス代替としての利用も期待されています。

*複屈折 | 光がある種の物質を通過した際に2つの光線に分けられること。

旭化成せんい

セルロースナノ微粒子 「ナノアクト™

再生セルロース繊維「ベンベルグ™」で培ったセルロース技術を基に開発されたセルロースナノ微粒子「ナノアクト™」。セルロースの着色性と親水性を活かした着色ナノ微粒子であり、免疫クロマト診断薬*等の発色剤として使用することで、高感度化、迅速判定、判定ラインの多色化等が可能になります。

*免疫クロマト診断薬 | 抗原抗体反応を利用した免疫測定法。特別な測定機器を用いなくても発色ラインの出現の有無を目視で判定することで、病気の陽性・陰性を簡便に判定できます。



左が「AZP™」(光漏れ無し)、右が従来樹脂

POINT

① 流動資産

現金及び預金が277億円減少したものの、たな卸資産が111億円、受取手形及び売掛金が89億円増加したことなどから、前期比12億円増加し、8,916億円となりました。

② 固定資産

保有株式の時価が上昇したことなどにより投資有価証券が510億円、無形固定資産が277億円増加したことなどから、前期比983億円増加し、1兆1,230億円となりました。

③ 負債

流動負債は、未払法人税等が383億円、コマーシャル・ペーパーが100億円減少したことなどから、前期比693億円減少し、5,074億円となりました。

固定負債は、繰延税金負債が145億円増加したものの、長期借入金156億円減少したことなどから、前期比32億円減少し、4,094億円となりました。

有利子負債は、前期比349億円減少し、2,690億円となりました。

④ 純資産

配当の支払265億円の減少などがあったものの、当期純利益を1,057億円計上したことや、為替換算調整勘定が528億円、その他有価証券評価差額金が379億円それぞれ増加したことなどから、当期末の純資産は前期末の9,258億円から1,720億円増加し、1兆977億円となりました。

その結果、1株当たり純資産は前期比121円91銭増加し775円05銭となり、自己資本比率は前期末の47.7%から53.7%となりました。D/Eレシオは、前期末から0.08ポイント改善し、0.25となりました。

連結貸借対照表 (要旨)

単位：億円

科目	前期	当期
	2014年3月31日現在	2015年3月31日現在
資産の部		
① 流動資産	8,904	8,916
② 固定資産	10,247	11,230
有形固定資産	4,805	5,025
無形固定資産	2,584	2,861
投資その他の資産	2,857	3,344
資産合計	19,151	20,145
負債の部		
流動負債	5,768	5,074
固定負債	4,125	4,094
負債合計	9,893	9,168
純資産の部		
株主資本	8,156	8,790
資本金	1,034	1,034
資本剰余金	794	794
利益剰余金	6,354	6,993
自己株式	△ 26	△ 30
その他の包括利益累計額	971	2,036
少数株主持分	131	151
純資産合計	9,258	10,977
負債純資産合計	19,151	20,145

連結損益計算書 (要旨)

単位：億円

科目	前期	当期
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
売上高	18,978	19,864
売上原価	13,857	14,393
売上総利益	5,121	5,471
販売費及び一般管理費	3,687	3,891
営業利益	1,433	1,579
営業外収益	106	173
営業外費用	111	87
経常利益	1,429	1,665
特別利益	555	31
特別損失	345	112
税金等調整前当期純利益	1,639	1,584
法人税、住民税及び事業税	682	441
法人税等調整額	△ 64	75
少数株主損益調整前当期純利益	1,021	1,069
少数株主損益	損 8	損 12
当期純利益	1,013	1,057

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位：億円

科目	前期	当期
	2013年4月1日～ 2014年3月31日	2014年4月1日～ 2015年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,442	1,376
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,038	△ 1,005
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,051	△ 740
現金及び現金同等物 に係る換算差額	33	55
現金及び現金同等物 の増減額 (△は減少)	386	△ 314
現金及び現金同等物 の期首残高	1,040	1,431
連結範囲の変更に伴う 増加額	5	6
現金及び現金同等物 の期末残高	1,431	1,123

連結株主資本等変動計算書 (要旨) (2014年4月1日～2015年3月31日)

単位：億円

	株主資本				株主資本 合計	その他の包括利益累計額					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,034	794	6,354	△ 26	8,156	756	△ 2	467	△ 251	971	131	9,258
会計方針の変更による累積的影響額			△ 157		△ 157							△ 157
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,034	794	6,197	△ 26	7,999	756	△ 2	467	△ 251	971	131	9,100
連結会計年度中の変動額			△ 265		△ 265							△ 265
剰余金の配当			1,057		1,057							1,057
当期純利益												
自己株式の取得				△ 5	△ 5							△ 5
自己株式の処分				0	0							0
連結範囲の変動												3
持分法の適用範囲の変動				2	2							2
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						379	△ 15	528	173	1,065	20	1,085
連結会計年度中の変動額合計	-	0	796	△ 5	792	379	△ 15	528	173	1,065	20	1,877
当期末残高	1,034	794	6,993	△ 30	8,790	1,136	△ 17	995	△ 78	2,036	151	10,977

会社概要

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	ケミカル・繊維、住宅・建材、エレクトロニクス、ヘルスケア等の事業を行う会社の株式保有およびその事業活動の管理等
本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
連結対象子会社	140社
持分法適用会社	37社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp

役員 (2015年6月26日現在)

取締役会長	伊藤 一郎	常勤監査役	永原 肇
代表取締役社長兼社長執行役員	浅野 敏雄	常勤監査役	城戸 信介
代表取締役兼副社長執行役員	平居 正仁	社外監査役	小林 公司
代表取締役兼専務執行役員	小林 友二	社外監査役	真壁 昭夫
代表取締役兼専務執行役員	小堀 秀毅	社外監査役	伊藤 鉄男
取締役兼常務執行役員	小林 宏史		
社外取締役	市野 紀生		
社外取締役	白石 真澄		
社外取締役	安達 健祐		

株式の状況

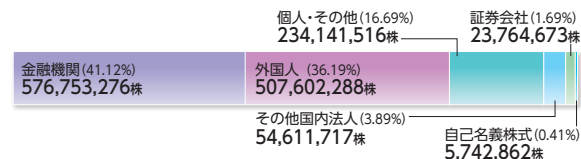
発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	85,482 名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	73,201	5.24
日本生命保険相互会社	73,000	5.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	54,486	3.90
旭化成グループ従業員持株会	35,506	2.54
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
株式会社みずほ銀行	20,269	1.45
東京海上日動火災保険株式会社	20,215	1.45
住友生命保険相互会社	19,517	1.40
全国共済農業協同組合連合会	19,200	1.37
明治安田生命保険相互会社	18,416	1.32

(注) 持株比率については、自己株式を除いて算出しています。

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



Close Up 『ベンベルグ裏地ミュージアム+』を開設

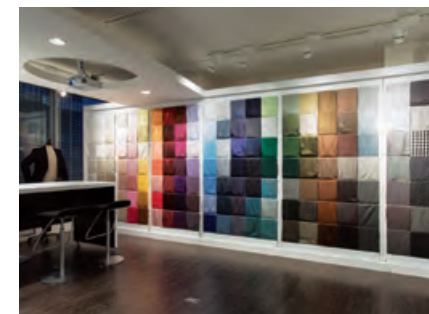
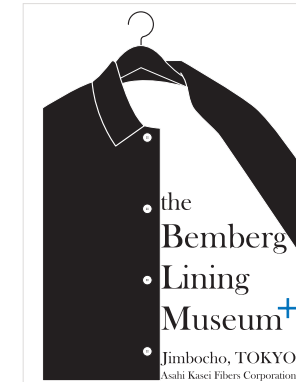
～ 操業開始から今年で85年～

旭化成せんいは、2014年10月8日、東京・神保町に『ベンベルグ裏地ミュージアム+』を開設しました。

コットンリントーを原料とする再生セルロース繊維「ベンベルグ™」(一般素材名 キュプラ)は1931年に延岡で操業を開始しました。「ベンベルグ™」は肌ざわりが滑らかで柔らかく、湿気を吸収し、放出する特長があります。また、夏は涼しく、冬は暖かいため、一年を通して心地よい繊維です。「ベンベルグ™」素材の用途は多岐にわたりますが、中でも裏地用途は中核を担う分野となっており、その優れた機能ゆえ日本のみならず、世界中のお客さまから“高級裏地”として、ご評価をいただいています。

『ベンベルグ裏地ミュージアム+』は、操業以来脈々と受け継がれてきた「ベンベルグ™」裏地の歴史と伝統を振り返りつつ、日本のファッション、衣装を支えるアパレル、小売り、問屋業界や服飾学校の皆さんと、裏地の未来を考える場として活用してまいります。同時に、新しい商品ニーズやご要望をお聴きするとともに、情報発信を積極的に展開するなど、コミュニケーションを深める場としてまいります。

洋服をお買い求めの際は裏地素材が「ベンベルグ™」(キュプラ)かどうかぜひお確かめください。



株式メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月下旬開催	同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
基準日	定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日	公告の方法	電子公告 http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html

株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座 ^(※1) に記録された株式についてのお問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ●住所、姓名などの変更 ●配当金の受領方法の変更 ●単元未満株式の買取、買増請求 ●特別口座から証券口座への振替請求 	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 〔三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)*〕
<ul style="list-style-type: none"> ●未払配当金の支払請求^(※2) ●その他のお問い合わせ 	株主名簿管理人 〔三井住友信託銀行株式会社(証券代行部)*〕	

(※1) 株券電子化以前に株式会社証券保管振替機構に預託されていなかった株式は、法令に従い、当社が、名義人名で三井住友信託銀行株式会社に開設した「特別口座」に記録されています。「特別口座」に記録された株式のご売却には、証券会社の口座への振替手続きが必要です。

(※2) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと定款の規定によりお支払いできませんので、お早めにお受取りください。

*【三井住友信託銀行株式会社(証券代行部)】

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先 ☎ 0120-782-031 (平日9:00~17:00)
ホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【配当金受領方法について】

お受取りには、下記の4つの方法がございます。安全、確実にお受取りいただくために、①~③の口座振込の利用をお奨めいたします。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)

- ① 登録配当金受領口座方式
すべてのご所有銘柄の配当金が、ご指定いただいた一つの金融機関預金口座に振込みとなります。
- ② 株式数比例配分方式
ご利用の各証券口座に振込みとなります。
(注. 当方式を採用している証券口座のみをご利用の株主様に限ります。)
- ③ 個別銘柄指定方式
ご所有の銘柄ごとにご指定いただいた金融機関預金口座への振込みとなります。
- ④ 配当金領収証方式
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金をお受取りいただけます。

【単元未満株式(1~999株)の買取・買増について】

ご所有の株式の買取りの請求、または買増しの請求をしていただくことができます。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)
なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です。(証券会社で管理されている場合の手数料は、お取引証券会社にお問い合わせください。)

- 買取請求
ご所有の単元未満株式を、市場価格で買取る請求をしていただく制度です。
(→ご所有の単元未満株式のご売却となります。)
- 買増請求
ご所有の単元未満株式が単元株(1,000株)になるために必要な株式数を、市場価格で買増す請求をしていただく制度です。
(→買増し後は、単元株式をご所有いただくこととなります。)

旭化成株式会社

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
<http://www.asahi-kasei.co.jp>

